

# 市民とまちづくりを

## 市民・職員合同研修会に参加

11月17日に市民参画協働研修会が行われ、協働ワーキングメンバーもサポートメンバーとして参加しました。講師にNPO法人テダス理事長の高橋博樹さんをお招き、協働についての講演とグループに分かれて

ワークショップを行いました。協働と関連の多いNPOについて、NPOとNPO法人の違いなど、知っているようで意外と知らないような内容について講演され、話の折々でうなずく参加者の姿が多く見られました。

## 職員提案に回答

平成25年度に職員提案された「「まちづくりの輪」を広げる3つの仕組み」。制度の実現について半年間検討を重ね、11月に回答しました。提案にある「市民公募委員登録名簿制度」「計画策定時における無作為抽出式市民

ワークショップの積極的な実施」については、両者の連携が効率的であり、実施可能であるが、「市民世論調査の定期的な実施」については経費削減効果など、疑問が残る部分があるため、全体として、時間はかかるが実施可能と回答しました。

ました。また、研修全体をとおして、「協働に対する視野が広がった」「市民との交流で、行政では思いもつけない考え方が良くなった。」などの意見が参加者から寄せられました。

## 「突撃!となりの市民協働」を発行

協働ワーキングが不定期で発行している『突撃!となりの市民協働』。平成26年度は、長岡京市観光協会を取材した第3号を発行しました。観光協会は長岡京市の観光、ひいては長岡京市のPRにつながるよう

日々活動されており、指定管理者として観光案内所の運営も任されています。商工観光課との協働事例を記事にまとめました。第4号では乙訓聴覚言語障害者地域

発行：市民協働・男女協働参画政策監  
(内線234・239)  
編集：市民参画協働政策研究会



## 『協働は第2のIT』



NPO 法人テダス 理事長の高橋さん

「協働は第2のIT (アイティ)だと思っています」そう話すのは、NPO法人テダス理事長の高橋博樹さん。11月17日に行われた市民参画協働研修会にて、自身の思いを語った。「昔前にパソコンが登場し始めたころ、最初はみんな使い方がわからず苦戦した。しかし、パソコンになれて使い方がわかってくる」と、なくてはならないものになった。私は協働もそうなると思っていて、役割分担の進みすぎた社会で、役割を超えた助け合いの必要性。20年前に起こった阪神淡路大震災をきっかけに、役割分担にとられず、自分にできることや強みを活かして、

てだれかと協力する、今でいう協働の形が自然と生まれてきました。協働はまだまだなじみのない言葉ですが、パソコンが生活や仕事に欠かせないものになったように、時代の変化とともに、いずれ協働も必要不可欠なものになる。研修会での講演をとおして、市民や職員向けに知識だけでなく、思いも語られました。

## 市ホームページから入手可!

「市民協働マニュアル」は市のホームページから入手できます。ぜひご覧ください。また、協働に対する疑問・提案・思いなどが

ある方は、お気軽に市役所の市民協働・男女協働参画政策監までお寄せください。  
(055-3164)



活動支援センターがほっこりんぐに出店している様子取材していますので、ご期待ください。